

競技規則等の変更点を必ずご確認ください

6月1日に、(公財)日本バドミントン協会の認定委員講習会がありました。その中で、競技規則の変更点等の説明がありました。

例えば、待てのジェスチャーは認められないこととなったことや着衣は白色を含めて全て審査合格品となったこと、ウェアの背面表示の文字列は明瞭な文字でアルファベットを用いる場合は大文字のみとすることやゲーム中の素早いタオルの使用は主審の許可を得なくても認められること(ただし、主審が素早くないと判断した場合は警告となる)など、会員の皆さんが不利益を被らないように、伝えておいた方がよいことも多く説明されました。

その研修内容を、研修に参加された本県認定委員の古田 謙二さんにまとめてもらいました。

上記のことだけでなく、詳細を資料にしています。是非、添付資料でご覧いただき、確認をお願いいたします。

福岡県協会 競技・審判委員長 坂本 哲

諸規程変更・追加等内容 (2024年度「公認審判員資格審査認定委員」講習会一部抜粋)

諸規程	条 項			今回	条 文	解 釈 等	2024-2025年度	2024年版
							赤本	緑本
競技規則	9条	1項	(1) (2)	○	サーバーとレシーバーがそれぞれの姿勢を整えた後は、両サイドともサービスを不当に遅らせてはならない。サーバーのラケットヘッドの後方への動きの完了した時点が、サービスの始まりを不当に遅らせているかどうかの判断基準となる。 サービス (レシーバー) フォルト	待てのジェスチャーは認められないこととなった。 必要に応じてサービスフォルト又は遅延行為が適用される (主審判断)	P9	P42
公認審判員規程	5条	11項	(1)		主審はプレーヤーがプレーを故意に遅らせないようにする。 遅延行為		P118~P119	P102
公認審判員規程	5条	2項	(2)		(練習時間の測定方法) 審判台に座ったところから始まりラブオールプレーのコールで終わる	前段として出来る限り早く審判台に座ること ※決められた練習時間の中に、選手紹介アナウンスの時間も含まれるため、レディートゥ プレーの直後はサービスの体制に入らなければならない。(コーチの方へ歩み寄るような行為は認められない)	P118	P102
公認審判員規程	5条	10項	(3)	○	ゲーム中、もし、プレーが不当に中断しない範囲であれば、プレーヤーは次のことが許可される。 ①素早いタオルの使用のみ ②主審の判断で許可されたタオルの使用や給水	主審の判断で許可されていた素早いタオルの使用が、主審の許可を得ることなく認められることと緩和された。	P118	P102
公認審判員規程	5条	11項	(1)		(プレーの遅延と中断) コート上で交換したラケットで試打したりすることのないように留意しなければならない ※但し、ラケット交換時にガットを切ることは認める	ゲーム中にガットが切れてラケット交換する際に素早くガットを切る事が追加された (尚、ラリー中以外でラケット交換する時は今まで通り主審の許可が必要)	P118	P102
公認審判員規程	5条	12項	(7)		(コートの外からのアドバイス) コーチにより、プレーが混乱させられたり、相手サイドのプレーヤーの注意がそらされたりしていると判断した場合の措置	レフェリーは必要があれば適切と思われる間コーチを退場させることが出来る (追加) ※自チーム選手への過度と捉えらえる叱咤激励で相手選手を萎縮させる場合を含む	P120	P88・P103
公認審判員規程	5条	12項	(8)		(コーチの服装) コーチはマッチにふさわしい服装で臨むこと。(この第12項でいうコーチとはコーチ席に座る可能性のある者を指す。) ※Tシャツ (ロングTシャツ含む) は認められないが、チームで揃えたTシャツ及び当該大会で販売された記念Tシャツは認められる。	コーチはコーチにふさわしい服装であって、プレーヤーにふさわしい服装ではない。審査合格品であれば全て認めらるゝとは限らない。七分丈のパニョーダ、ショートパンツの着用は認められない。尚、七分丈長ズボンの着用はレフェリー判断による。	P113	P103
大会運営規程	4章	19条			(個人戦棄権後の措置) マッチを棄権したものは、それより後の同一種目及び同大会にエントリーしている他の種目全てにおいて出場出来ない。ただし、ダブルスの場合棄権したプレーヤーのパートナーは除く。棄権行為が本人又は本人以外の者を有利にする目的でなく、レフェリーが正当な理由と判断した場合は、出場を認めることがある。	足がケイレン (つる) で棄権した場合は、翌日であっても別エントリー種目への出場は認められない。体力回復とみなされる ※ケガで棄権となった場合で翌日等に出場出来る判断として、ケガであることを医師が証明したものが必要となる ((公財)日本バドミントン協会 競技審判部長へ確認済み) 2022. 5	P148	P127
大会運営規程	4章	23条		○	プレーヤーは、相手または観客に不快な感じを与えないように、競技中、競技用ウェア、シューズを着用し、競技の品位を保つために本会の審査合格品でなければならない。	従来、色付き着衣を使用する場合は協議の品位を保つために本会の審査合格品でなければならない。と明記されていたが、今回から白色を含めて全て審査合格品が求められることとなった。 ※Tシャツは審査合格品では無いので今まで通り認められない	P149	P128
大会運営規程	4章	24条	(1)	○	(ウェアの背面表示) 文字列、背番号は明瞭な文字 (アルファベットを用いる場合は大文字のみとする) ※尚、背番号と同じ数字をウェア前面の胸下へ付けることは認められているが、前面のみの表示は認められない	以前からBWFにおいてはアルファベットは大文字のみとされていた。国内大会においてもBWFのルールを準拠することとなった。 ※但し、2026年3月迄は移行期間として従来の背面表示は認められる。(移行措置)	P149~P150	P128
審判用語					マッチ開始時の選手紹介の際に選手間にアンドをはさむこととなった 例) 個人戦シングルス オンマイライトWさん (所属名) アンド オンマイレフトXさん (所属名) 個人戦ダブルス オンマイライトAさん (所属名) アンド Bさん (所属名) アンド オンマイレフトCさん (所属名) アンド Dさん (所属名) ※ダブルスの場合、パートナー同士が同じ所属の場合、所属名はダブルスペア2人の名前の後に1度だけアナウンスすればよい。		P31	P60